

大学院生の学術論文への貢献について

理工学府長 竹村 泰司

大学院生 各位

新たに大学院生となった皆さん、入学おめでとうございます。これから勉学ならびに研究に励み、充実した学生生活を送ることを祈念します。また進学した皆さんには、さらに充実した研究を行い、修了までに素晴らしい成果を上げると共に、研究者として大きく成長することを期待します。

近年、グローバル化に伴って、世界中の国々が世界を相手に活動することが求められるようになりました。そのような状況下では、個人の経歴や能力を示す共通指標として、学位の重要性がますます高まっています。重要な研究成果を上げたことに対して授与される博士号や修士号は、将来にわたり、皆さんの活動を支える重要な称号となるはずです。修了に向けて、精一杯頑張ってください。

さて、皆さんもご存知のように、学術的な研究は、単に自らがそれを行っただけで完結するものではありません。その目的、過程、結果、考察をまとめた学術論文を権威ある学術ジャーナルに発表することで、初めて国内外に正しく認知され、個人の業績となります。またこのことが公的資金を用いた研究の社会還元の一つとなります。このような学術論文は、単に投稿すれば載るというのではなく、匿名の査読者による厳しい審査をパスすることで初めて掲載されます。博士課程後期の学生は、学位を取得するために、学位論文の執筆に加え、その内容を裏付ける学術論文の執筆、投稿、掲載が求められます。博士課程前期の学生もこれに準じ、同様の学術論文の執筆、もしくはこれに貢献することが望まれます。特に、上記のようなグローバル化が進む現代にあって、その価値は以前にも増して高まっており、学生個人の評価、ひいては大学全体の評価にもつながっています。

以上のような背景から、工学府の博士課程前期では平成 29 年度より、学術論文を発表、もしくはこれに貢献した学生を、修了時に特に顕彰することとしました。理工学府でも継続します。さらに、学業優秀者表彰、日本学生支援機構大学院第一種奨学金返還免除などの評価においても、これを最重要評価項目としています。

以上